

オーディオの総合誌 1963年7月20日第3種郵便物認可 2008年4月1日発行  
第46巻第4号 毎月1回1日発行

# stereo

2008 **4** APRIL

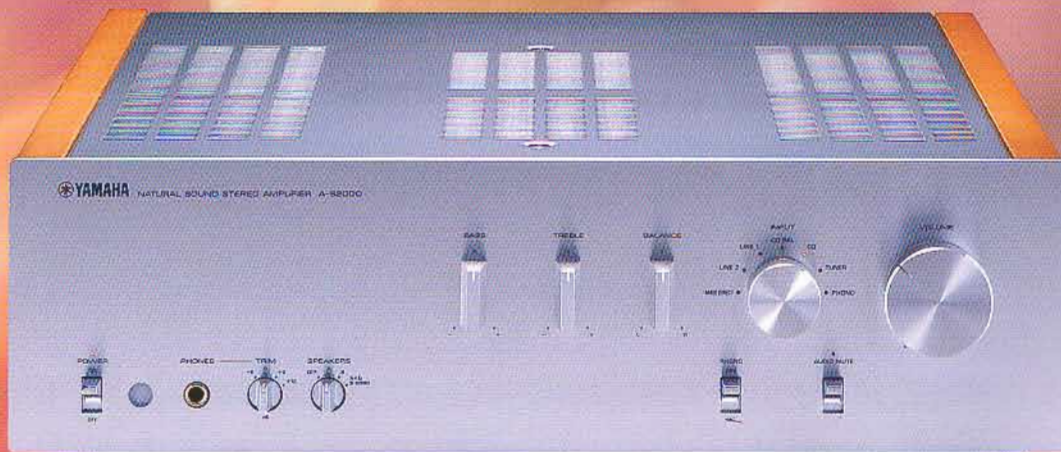
## ★特集

① ケーブルつなげて広がる楽しみ

② 新製品を探れ!!

総力取材 A&Vフェスタ2008レポート

[集中試聴] ブックシェルフ・スピーカー17モデルを聴く



## ★話題の新製品を聴く

[CDプレーヤー部門] ソウルノート sc1.0/ソウルノート cd1.0

[D/Aコンバーター部門] ノーススター・デザイン Model192 DAC mk2

[プリ・メインアンプ部門] タンジェント AMP-50/ブラデリウス Tyr/マックトン XM-300B

[パワーアンプ部門] ニューフォース Reference 9SE V2/山本音響 A-09S

[スピーカーシステム部門] フォーカル Chorus714V/タオック LC200M/シンセシス CLUB

[オーディオアクセサリ部門] タオック TITE-25MF

**ヴァイアブルー**  
**NF-S1 Quattro Analogue**  
**Silver**

オープン価格 (実売 ¥22,000  
 程度 1.0m pair)

※他サイズ希望の場合はお相談  
 専ファイブソース ☎047-354-7196



◆独奏ヴァイオリンは  
 ストレートに出る  
 積極性があり、それ  
 が元気の良さにつな  
 がると同時に、ほぐれ  
 にくさや硬質な印象に  
 もつながる。オーケス  
 トラも華やいだ個性  
 的な中高域だが、全



体に軽めになる。ボーカルのサ行がやや強めだが、音があまり重ならない時には快適感を醸し出す。全体的にあまり密度が高い印象ではなさそう。●石田  
 ◆両端にフィルターを装備した、手触り感が適度に重く硬めのケーブルである。ストリングスの艶っぽく細やかな響きの美しさを、上品かつ緻密に伝えてくれる。木管楽器の爽やかな木質感にも穏やかさや表情の豊かさがあって好ましい。オーケストラの展開では、重厚な音場の質感を素朴に再現し、落ち着いたある表現力を発揮する。●須藤

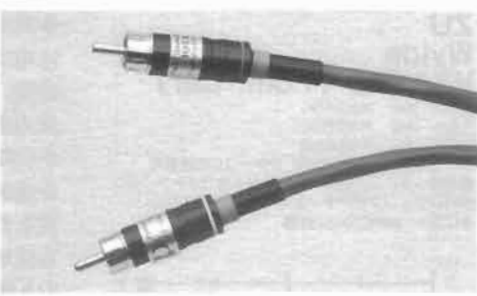
**PAD**  
**IOTA RCA**

¥31,500 (1.0m pair)

※0.5m単位 (+¥3,000) でケーブルの延長可  
 ●導体 複心線合金導体(銅、金、銀) ●シールド: フォ  
 イル+ドレインワイヤー ●主な絶縁体 サントブレ  
 ーン ●外径: φ5.8mm  
 特ヒノ・エンタープライズ ☎06-8383-1701



◆独奏クラリネットは  
 少々細身の音色。素  
 朴かつ淡々とした表情  
 で、低域、高域へのレ  
 ンジ感もあり欲張っ  
 ていない。音像的にも  
 外に向けて開放的に  
 広がるというより内側  
 にまとまるようだ。要因は



中高域に個性があり、若干の派手さと色合いを感じさせるためだろう。低域がややあっさり気味な点も、中高域を目立たせる一因となっている。●石田  
 ◆本体は適度に硬めで、細身のグリーンカラー。ストリングスの艶っぽい響きの美音を素直に伝えてくれる。繊細な表情やサラサラ感も悪くない。木管楽器の爽快な木質感を表情豊かに再現。オーケストラの展開には、重心の低い音場の雰囲気と見通しの良い楽器群の細やかな表情をイメージすることができて好印象。●須藤

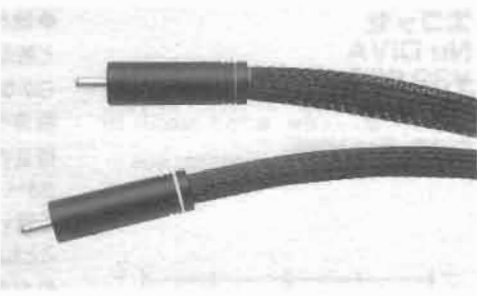
**AET**  
**HCR LINE EVO**

¥31,500 (1.2m pair)

0.8m pair: ¥28,350  
 3.6m pair: ¥56,700  
 ●導体 国産プレミアム無酸素銅 ●絶縁材: 非カド  
 ミウム系フッ素樹脂 ●プラグ: 鍛造PCOCC、他  
 他イーティー ☎03-3828-4320



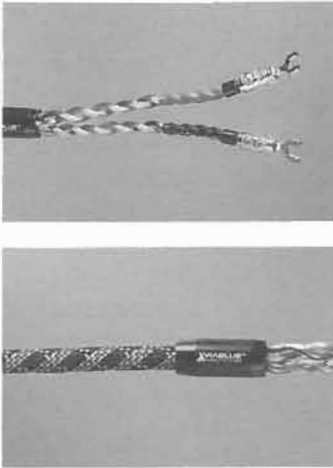
◆レンジ的にはあまり  
 欲張らない。中音  
 域にやや華やいだ独  
 特の軽快さや明解さ  
 があり、独奏ヴァイ  
 オリンは元気が良く、く  
 ったくのない表情に  
 つながる。しかしこ  
 の表情は少々派手



になるようで、オーケストラのプラスなど少し目立つ印象になる。低域はややゆったり気味で甘めだが、耳なじみの良い滑らかさがある。●石田  
 ◆適度に細身で、硬い手触り感のブラックカラー。ストリングスの艶っぽくも華麗な質感をバランス良く伝えてくれる。余韻の響きも美しい。木管楽器の爽快かつ繊細な密度感を素直に再現。穏やかさの雰囲気も悪くない。オーケストラの展開ではまとまりの良い音場に、ソリッドな楽器群の定位が印象的である。●須藤

**ヴァイアブルー SC-2 Silver Single-Wire**

オープン価格(実売¥35,000程度・3m)  
 端末処理モデルでの試聴 ☆導体構成:銀、銀と銅のブレンド 4mm 448本 巻ファインソース  
 ☎047(354)7196



超極太な姿かたちを反映したような豊かにして厚手な音場感や、単一楽器でのたつぷりした「鳴り」に特徴が感じられる。しっかりと音を押し出してくる感覚もあって存分にスピーカーを鳴らした感覚に浸らせる。銀線と銅線のブレンドが特徴で、構造も端末処理も凝っていて重量もあり、接続相手端子や端子周辺部の頑強さは必須。(神崎)

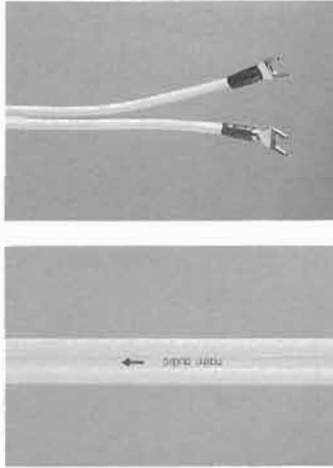


切り売り製品ではなく定尺物。導体は銀線と銀・銅ブレンドのハイブリッドで4芯型。外装部はφ12mm。もっぱらバイワイアリングを意識しているようだが赤/黒で色別。また、ローパス/ハイパス用表示もある。4芯共にたつぷり導体を使っている。低域方向は厚手な表現。高域も自然な切れ込み。中域も自然な響き。マニア向き。(藤岡)



**ネイム NAC A5**

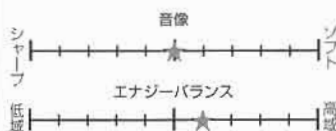
¥23,940(2m)  
 端末処理モデルでの試聴 切り売り (¥3,360/m) もあり ☆導体構成:20芯OFC 巻パンフ  
 イックオーディオ ☎03(5280)5106



明快さが中心になったサウンドという印象だが、声の帯域がこちら(リスナー)に向かつて張り出してくるような積極性が、より大きな特徴として感じられる。屈託のない独特な伸びやかさが魅力だろう。オーディオ・メーカー「ネイム」からの20芯OFCの平行構造ケーブルで、2本のケーブル間への矢印印刷が処理としてスマート。(神崎)

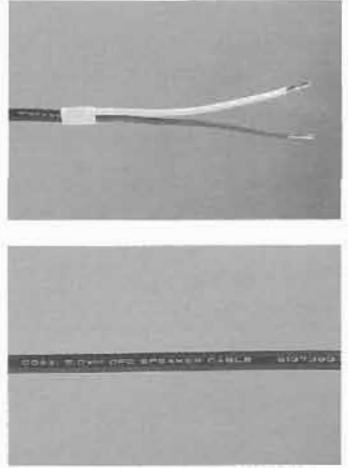


白色外装でメガネファイター状。2線間にセパレーターがあり、そこに矢印が印刷されて方向性が指定される。⊕⊖は色別や片側印刷といった手続きは皆無。従って間違いなく⊕⊖を設定したい。これも懐の深いケーブルでウエルバランス。繊細で切れ込みのいい高域。中域は明るく張り張りがある。低域方向は量と制動力が一致。(藤岡)



**チクマ CDS-SPC**

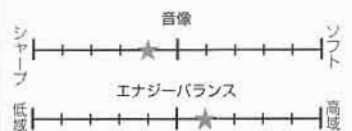
¥14,700(2m)  
 端末処理モデルでの試聴 端末はハンダ(無鉛)仕上げ ☆ケーブル外径:6.5mm ☆導体構成:OFC 0.18mm×80本 ☆シース:PVC 巻千曲精密製作所 ☎0267(68)5311



たつぷりと豊かな弦楽アンサンブルの「鳴り」の良さが印象的だが、音場が厚手に豊かに展開するところに、より特徴が出ていると言えよう。豊かなアコースティック感覚による再生が狙えるのが特徴になっている。同社独自の処理を施した導体を使った外径6.5mmφの同軸構造のケーブルで、定尺売りを基本としている製品である。(神崎)



この製品は直販のみ。外装は黒でφ6.5mmの丸形。方向性の指定はなく⊕⊖の認識は赤/白の色別。導体OFC。シールドタイプ。1.0mから5mまで0.5mステップで発売されている。特注も可能。外径は細いがウエルバランス。シャープで伸びのある高域。中域はやや明るい方向性を聴かせる。低域方向はダンピングが効いている。(藤岡)



## 総評

### 神崎一雄

久しぶりにスピーカーケーブルの集中試聴を体験した。本数はそれほどではないが、価格面ではメーカー当り3桁の製品から5桁の製品までと、価格レンジは結構広い。ケーブルによるサウンドの違いは、今更めて言うこともなく、オーディオ・コンポーネントのサウンドの違いに比べたら格段に微妙なもの。しかし微妙とはいえない違いは厳然として「在る」。微細な差を追ってゆくと、差は結構大きなものを感じられてくる。線材が違い、撚り方が違い、構造が違う。ひとつの条件での差は小さくても幾つもの条件が重なって大きな違いをもたらす、結果としてのサウンドキャラクターは結構多彩である。

コンポーネントのサウンドに比べたら微妙な違いだが厳然とした違いがあった



ところで印象に残った製品を挙げてみると簡単に十指に余る。一応バランスの取れたサウンドのものを挙げて見る。ハイC/P比ならAK・1500F、PAV53102・30、SPC・510、6NSP・2200S、AT・ESI500。AK・1500Fは超ハイC/P比である。中級以上で充実感を求めるとACR OSS 2000、Rondo 04×4・0、G・S#79nano3。更なる充実を求めるとCDS・SPC、ORBITOR4ということになるか。

他に徹底的に透明感や重厚感を追えば、違う選択が充分あり得る。またコンポーネントの価格やクオリティとの兼ね合いもクールに考慮するのも忘れてはならないことである。

各メーカー・ブランドの狙いが明確で楽しい試聴であった



### 藤岡誠

アンプから出力される電力をスピーカーシステムに伝送する役割を果たすのがスピーカー・ケーブル（コード）だ。今回は神崎さんと一緒に内外23種類を本誌リファレンス装置を用いて試聴した。極端に高価な製品は編集側のリストアップ作業の過程で省かれているようだ。一部に定尺物もあるが多くは切り売りされている製品。最高価格に定尺物で1・8m長で7万円台前半。最低価格は切り売り物で1m長で4000円台前半。導体素材は各種各様。構造も同様。2芯型に加え4芯型もあるし外装の中にシールド機能を持ったタイプもある。いずれにしても各メーカー

1・ブランドの狙いが明確で楽しい試聴であった。

事前に明記しておく必要があるのはモニター・スピーカーとしてのB&Wの801Ⅲは低域量感がたっぷりとしてそのスピードは必ずしもはやくない。このため試聴にバイアスが掛かり相性の良し悪しがありある。極力、バイアスが掛からぬよう配慮している。私のお薦めは価格順に「classica・0」「SPC-710」「ACROSS 2000」「SPCA5」「NACA5」「G・S#79nano3」「SC-2 Silver」「7NS P-Grandio 07」の8製品。内容や音質、音調については本文参照ということになる。